

| | |
|---------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 団体名 | 一般社団法人里山生物多様性プロジェクト |
| 所在地 | 〒683-0217 鳥取県西伯郡南部町鶴田461番地日本インテライツ内 |
| 団体の目的 | 今を生きる子ども達と未来に生きる子どものために生物多様性保全上重要な里地里山に選ばれた南部町の特徴を活かして若者が輝く未来を創造する。 |
| 活動地域 | 鳥取県西伯郡南部町 |
| 地域循環共生圏を活用して目指す地域の姿 地域の現状・課題 | <p>生物多様性保全上重要な里地里山を保全し活用することが町の新たな産業となり、保全と活用に関する仕事をする若者たちでにぎわう。観光や宿泊、製造業が盛んになり、新しく生まれた産業が社会になじめない若者や、大学を卒業して環境保全を仕事にしたいと願う若者に活躍の機会を提供する。</p> <p>南部町は農林業が主な産業であったが、いまは人口減少と少子高齢化によって地域の担い手不足に直面している。</p> <p>若者達はなりたい自分の姿と身近な大人の姿にギャップ感じ、明るい未来を描けないでいる。</p> |
| 地域が持つ資源 | <p>鳥取県の南部町は全域が環境省から生物多様性保全上重要な里地里山(重要里地里山)「南部町の里地里山」に選ばれた地域です。</p> <p>10年以上活動を続けられた自然観察指導員によって、保全活動に関心をもつ若者達があります。また、鳥取県の東部には鳥取環境大学があり、地域を愛し環境保全に関心を持つ若者達が育っています。</p> |
| 取組内容 | <p>生物多様性保全上重要な里地里山のブランドを活かし高めることで、地域に生物多様性の保全に関する観光や宿泊といった産業を興す。産業の創出段階から子ども達や若者達の参加してもらうことで、子ども達にワクワクする未来を描く機会を提供する。苦しむ若者と大学を卒業した若者に環境保全を仕事にする機会を提供する。</p> |
| 地域循環共生圏を 実践することで想定 される効果 | <p>(環境) 生物多様性が豊かになる。</p> <p>(経済) 生物多様性の保全活動地域経済、福祉が結び付き、経済と福祉の為に生物多様性の保全が行われる。</p> <p>(社会) 地域を愛し自然を愛する若者がやりがいとそれに見合う賃金をもらって働く社会</p> |



| | |
|----------|-----------------------------------------------------------------------------------------|
| 名称 | 一般社団法人 里山生物多様性プロジェクト |
| よみ | サトヤマセイブツタヨウセイプロジェクト |
| 代表役氏名 | 代表理事 野口 浩二(のぐち こうじ) |
| 活動地域 | 鳥取県の南部町 |
| 連絡先 | 電話080-6313-8550、メール info@interigth.co.jp |
| 所在地 | 鳥取県西伯郡南部町鶴田461日本インテライツ内 |
| ホームページ | https://satoyamabp.org/top/ |
| Facebook | https://www.facebook.com/satoyamabp/ |



①概要情報

鳥取県の南部町で生まれ育ち、2016年に南部町に戻って来た。南部町で活躍する自然観察指導員との出会いをきっかけに、野生動植物を通して見る南部町の魅力に気づく。それとともに、野生動植物の環境保全が直面する課題を知る。SDGsの広がりを課題解決のチャンスと捉えて、野生動植物の環境保全と地域経済の課題を結び付けて課題解決に挑む。「環境保全と観光が結びつく町」を目指して活動中。

②沿革

2019年12月に野生動植物の環境保全を目的として里山生物多様性プロジェクトを設立、2020年6月から一般社団法人。荒地となった水田の草木を刈り、水を張って、生物調査体験会を行う。失われつつある二次的自然の保全と地域活性化を目指す。

2021年1月「観光と保全を結ぶ、環境保全を感じる体験会場を作る」を目的にクラウドファンディングに挑戦。目標の120万円を上回る159万円の支援を集めて達成する。



田んぼビオトープによる生物多様性豊かな緑化活動

(令和2年度地域緑化活動育成支援補助金に係る事業)

2020年に荒地となっていた約1000平米の水田の草木を刈り、畔(あぜ)を作り直して水を張る活動を始めました。

周辺から自然に生物が集まって出来上がるビオトープをコンセプトにしています。一人だった会員が16人まで増えました。



生物調査の体験会

整備した水田で生物調査の体験会を行って、地域の方々へ生態系の素晴らしさを伝えています。外部専門家に講師をお願いして2020年10月から2021年3月までに4回の体験会を行いました。



クラウドファンディングに挑戦

2021年1月に「観光と保全を結ぶ、環境保全を感じる体験会場を作る」クラウドファンディングに挑戦しました。120万円の目標に対して、95名の方から159万円を超えるご支援を頂き達成しました。本年度、2か所の荒地を整備します。



国際生物多様性の日祭りオンライン

2021年5月22日の国際生物多様性の日に合わせて、南部町で国際生物多様性の日祭りオンラインを開催しました。外部講師、鳥取県緑豊かな自然課、会員2名の計4名が講演を行い30人の方が参加しました。毎年開催するイベントにしていきます。



生物多様性保全上重要な里地里山ツーリズム

(令和2年度鳥取県協働提案・連携推進補助金に係る事業)

2020年から鳥取県と協働で重要里地里山ツーリズムの実現に向けた活動を行っています。鳥取県の観光分野での発信力を事業の中に取り込みます。



若手ガイドの育成

私たちは、外部専門家を講師に招いて生物調査の体験会を行うことで、若手ガイドの育成に取り組んでいます。私たちの活動に高校生2人と大学生5人が参加しました。

③メディア掲載

「動植物体験の場開設へ 観光取り込み保全活動継続を」、日本海新聞、2021年2月10日

「国際生物多様性の日 南部町でオンライン催し」、日本海新聞、2021年5月23日

「環境保全を観光一環に」、日本海新聞、2021年10月16日

「豊かな里山を守り伝える 南部町にビオトープを計画」、朝日新聞、2021年2月27日

④賛同アクション

- ・SATOYAMAイニシアティブ推進ネットワークに参加
- ・つなげよう、支えよう森里川海プロジェクトに賛同アクション
- ・とっとりSDGs推進会議に参加
- ・エコライフフェア2020オンラインに出展